



●歴史通信担当 大石より。

○黎明館で開催されている企画展の紹介記事だけど、紹介している学芸員の方の記事内容を知るだけでもいい勉強になります。

派手な展ではないけど「行ってみようかなあ」と思う。何しろ暇あり人間になったので。

○素晴らしい企画ですね

竹姫、重豪、斉彬と続く流れが。明治維新をもたらした。

福澤諭吉や勝海舟はこの流れがなければ出現しえなかった斉彬を17歳で産んだ母、弥姫（いよひめ）も素晴らしい。

薩摩の歴史は素晴らしい女性と女性に優しい男性の歴史です。===== 西山 和宏

○私は今朝新聞を見て初めて知りました。

月曜日は休館日、火曜日は小森歯科が11時からなので、水曜日(21日)以降に行こうと思っていますが、どうでしょう。

森くんはどうでしょうね。 クマモト



○ 隈元くんへ 申し訳ない！

愛妻が珍しく今回の展示会を観たいと言うので「皆さんと一緒には??」人見知りさんなので、今日二人で行って来ました。日曜日の割にはとても少なく、じっくり観て来ました。義久の女子(娘)新城のことが詳しく説明展示されていたのでスマホで撮りたかったけど撮影禁止の為残念でした。4章に分かれていて最後の明治からの島津田鶴子たりが今回の展示会のハイライトかもしれないけど戦国島津の「謎解き」の呪縛に絡まれているのか、どうしても政略絡みで見てしまい疲れます。最後の丹下梅子さんには申し訳ないことでほとんどスルーでした。余り大掛かりな展ではないけどそれなりにいろいろ新たに考えることもありました。

○それは良かったです。

これを機会に大石くんも奥様と一緒に行動されるといいですね。

私は機会をつかって適当な日に見学してきます。 クマモト



そんな話をすると、多くの方が怪訝（けげん）な顔をされる。中でも歴史に詳しい方は、「冗談でしょ」と取り合おうともなさらない。

これまで戦国時代に関する万巻の書物が上梓（じょうし）されているが、2人の婚約について記したものは（管見の限り）1冊もない。だから一笑に付されるのも致し方ないが、これはまぎれもない事実である。

私がそうではないかと思い始めたのは、家康の重臣松平家忠が残した「家忠日記」の、天正10年5月21日の記事を読んだからである。家忠は安土城からもどった者から、信長が手ずから御膳をすえ、麦こがしを引いて家康主従をもてなしたと聞いた。その上信長は引き出物に帷子（かたびら）を2つずつ与えたが、そのうち1つは女性用の紅の生絹（すすし）だったという。

これを読んで以来、信長がなぜこんな特例的なもてなしをしたのか気になりだした。しばらくあれこれと考えているうちに、これは三日夜の餅と三日夜の衣（きぬ）ではないかと思い当たった。

婿取り婚が一般的だった平安時代、男は女の家に忍んでいった。そして一夜二夜と共に過ごし、三夜目になれば婚約が成立したと見なし、女の父親が三日夜の餅でもてなし、女の着物を三日夜の衣としておみやげに持たせた。

信長がこれと同じ形で家康をもてなしたのは、お市の父親替わりとして婚約を祝ったのではないか。そう考え、お市と家康の関係を証明する記録はないかと、意識をとがらせて資料に当たるようになった。

すると同じ「家忠日記」の天正10年12月11日の条に、次のように記されていた。

〈古府（甲府）へ出仕候、明日帰陣候への由、仰せられ候。越前芝田（柴田）所より御音信候、進上物しちら三十巻、はわた百把に鱈（たら）五本なり〉

家康はこの頃、本能寺の変後の甲斐、信濃の領有をめぐる北条家と対立し、甲斐で北条氏直と対陣していたが、和議がまとまって帰陣することになった。そんな折に越前の柴田勝家のところから「御音信」があったのである。

家忠の敬語の使い方を見れば、贈り物をしたのが勝家ではなくお市だと分かる。「芝田所より」と勝家を呼び捨てにしているが、お市には敬意を払っているのである。

贈り物の「しちら」（しじらの反物）と端綿（はわた）は、これで綿入れを作って寒さをしのいで下さいという心遣い。鱈は正月料理には欠かせない北陸の名産品である。どうやらお市は、勝家と政略結婚させられた後も家康に思いを寄せ、こうした贈り物をしたらしい。

これはもう間違いない。2人は婚約していたのだと意を決し、2015年から地方紙に連載を始めた「家康」の中で清冽（せいれつ）なベッドシーンを描いた。

すると多くの読者から「これは史実か」という問い合わせや、「たわけたことを書くな」というお叱りをいただいた。それに対して「これが事実だと確信しています」と答えることしがでできなかったが、昨年になって決定的な証拠と出会うことができた。

慶応大学文学部教授である浅見雅一氏が上梓された「キリシタン教会と本能寺の変」（角川新書）の巻末に、ルイス・フロイスがイエズス会総長にあてた「信長の死について」と題す書簡（1582年11月5日付、口之津発）が収録されている。

この中でフロイスは、明智の家臣たちは本能寺に向かう時、〈明智は、信長の義弟である三河の国王（徳川家康）を殺害するつもりかと考えた〉と記している。家康が信長の義弟と呼ばれるのは、お市と婚約してこんな大事なことが、なぜ今まで隠されつづけてきたのか？ それは儒教を国是とした江戸幕府の儒学者たちが、神君家康公ともあろうお方が妻子（築山殿と信康）を殺せと命じた信長の妹と婚約しているのは、いかにも具合が悪いと考えたからではないか。

信長とお市が非業の死をとげた後、家康は秀吉の妹朝日姫とも結婚しているのだから、節操がないと受け取られることをおそれて史実を消し去ったのだろう。

しかし家康は、そうした後世の政治的な思惑とは無縁の高みに立ち、乱世を泳ぎ抜いて江戸時代260年余の平和の基礎を築いたのである



=====西山 和宏

あべ・りゅうたろう 1955年福岡県生まれ。作家。2013年「等伯」で直木賞受賞。著書に「信長燃ゆ」「家康」「おんなの城」など多数。

○西山さん

信じられないようなこと びっくり・・・

非常に興味深く読ませていただきました。

ありがとうございます。また、このような びっくりような話 よろしく
お願いします。

木場 祥雄

○歴史には解明されていないことが本当に多いものですね。

あっと驚くようなことが、今頃になっても読み解かれるという面白さでしょう。

頑張って歴史的発見をしたいものです。 クマモト

○大石提供

『出水筋』21ー長島の高松古墳群…は面白かった。数年前に鹿児島市財団主催の国際交流探訪と言うバスツアーで長島の鬼塚古墳を探訪したから今回の記事は何回も読んだ。

あの時も町の学芸員さんに案内説明を受けたことを思い出す。何故こんな島にこれほどの古墳群があるのか？「彼らは一体何者なのか？」何故皆海辺にしかも西を向いているのか？それから時が経って少し古代史に関心がでての今回の記事だった。

あの時説明を受けた学芸員さんに「玉龍高校で河口先生に授業を受けた」と話したら「私たちもよく知っています」と、沢山参加した中で特にぼくを語り（説明）相手にして詳しく説明してもらった。

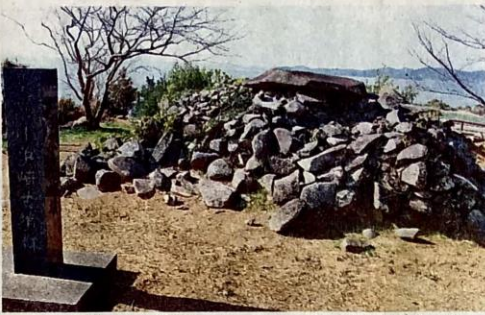
かごしま
街道見聞記

桐野 作人

[21]

出水筋②

長島独特の高塚古墳群



小浜崎古墳群のひとつで、豪華な副葬品が出土した白金古墳＝長島町蔵之元

という構図がじつは古代にまでさかのぼる。それは長島の墓制古墳群によく表れていることがわかる。

長島には堂崎城が立地する西海岸沿いに古代の古墳群が点在

前回、長島の堂崎城が肥後と薩摩の境界にあることを紹介した。この地域には、求麻の相良氏や天草諸島の天草八氏（長島氏を含む）と、北薩の薩州島津家という肥後と薩摩の勢力のせめぎ合いがあった。

そうした境界でのせめぎ合い

南九州の西岸地域には、熊本県南部の不知火海岸、球磨川流域、北薩の出水、伊佐両市や川内川流域に「地下式板石積石室墓」が数多く分布している。単人系の墓制だといわれる。

前方後円墳は見られない。そのため、長島の古墳群は直接的には、有明海や八代海沿岸の古墳文化の影響を受けており、当地方で大きな勢力をもっていた火の君（肥の君）がヤマト政権の単人支配の一翼を担って長島方面に進出し、次第に単人を支配下に治めていったことを示していると思われる。

では、長島古墳群が成立した時期はいつ頃だろうか。発掘を担当した池水氏によれば、5世紀後半にヤマト政権系の肥後勢力による対単人政策の橋頭堡（かきだまり）として発生し、

寛治氏（当時出水高校教員、日本考古学協会所属）と同校考古学部によつて指江古墳群の発掘調査が行われた。その結果、百数十基もの墳墓から成る群集墳であることが明らかになった。それを皮切りに以下のように、次々と西海岸に古墳群が発見され、発掘調査が実施されている。

①指江古墳群②小浜崎古墳群（白金古墳、鬼塚古墳を含む）③明神古墳群④温之浦古墳群 これらの古墳群には単人系の地下式板石積石室墓と異なり、高塚古墳が多数見られる。3世紀前半、畿内に発生した高塚古墳文化の影響を受けているといわれる。 もっとも、長島の古墳群は円墳や積石塚の形式が多いものの、ヤマト政権の墓制に特有の

又いつか、隈元くんや森くん他高校仲間と再訪したいと思うことです。

○隣接する古墳の様式が異なるのは故郷の様式を継承しているからではないですか？乾燥した地域からの移住者は地中に葬り湿気が多い地域からの移住者を祖先に持つ者は堅穴式石室にしたのであろう。

墓の形式は地域自然の影響を受けるものだと思う。

異なる古墳があるということは出身地が異なる者たちが争うことなく新天地で協力しながら平和に暮らしたのではないのでしょうか。

そして恋も芽生えた

同族同士の結婚は種族の力を衰えさせるが異族との結構はF1PPで優秀な子孫をもたらすなどと想像しています。

=====西山 和宏

2021年4月19日(月) 14:22 大石慶二 <kjoishi3@gmail.com>:



<https://youtu.be/-BWf9hGoLVk>

8年前訪れた古墳群。

○予想以上に面白い映像でした。ますます興味が湧いてきました。

やはり、地元にも有力な豪族がいたみたいですね。

私も、もう何回も長島には渡りましたが、目的は温泉だったり、蔵之元港？から天草に渡る時だったり、古墳や有名な化石の探求は1回もやっていません。　クマモト

○予想以上に面白い映像でした。ますます興味が湧いてきました。

やはり、地元にも有力な豪族がいたみたいですね。

私も、もう何回も長島には渡りましたが、目的は温泉だったり、蔵之元港？から天草に渡る時だったり、古墳や有名な化石の探求は1回もやっていません。　クマモト

○私が知らない楽しみが多いようですね！

=====西山 和宏

○古墳については全然知らないのでこれからです。

ただ、今日の記事は私も大変面白く読みました。

早速、wikipedia で「鹿児島県長島の古墳群」の検索しました。

長島に多いと言われる積石塚式の古墳は特殊で肥後勢力が隼人支配の一翼を担って長島方面に進出し、次第に隼人を支配下に治めていったことを示しているといいながら、近年では肥後勢力との関連は希薄だと指摘している出水郷土誌(上)などを図書館で読んでみたいと思うことです。いずれにしても長島にどのような人々が住み、どのような身分関係があったのか、副葬品からも豪華なものが発掘されているようなので興味が湧きますね。森くんを隊長に行きましょう。クマモト

○コロナ後の医療、危機管理なき日本の隘路

西山和宏より

ワクチン接種開始、「システムどうする」国と自治体がせめぎ合い

2021.4.20 中山 玲子 日経ビジネス記者

4月12日に開始した新型コロナウイルスワクチンの高齢者接種。その開始に向け、厚生労働省と内閣官房はシステム構築に全力を注いできた。しかし、自治体側から見ると運用面ではいくつも課題があったようだ。当初、国が描いたシステムの設計に縛られて、市区町村での接種時期が遅れてしまう――。接種開始の10日前まで、自治体は追い込まれていた。



「このままだと高齢者向けのワクチン接種の時期が遅れます。本当にそれでいいんですか」

全国知事会は国側にワクチンの関連システムについて現場の実態に合った柔軟な使用ができるよう求めてきた
医療従事者と高齢者に同時に対応できない

2月、先行して医療従事者への接種がスタートした。当初はこの医療従事者への接種が完了してから高齢者への接種に移る予定だった。しかし、実態は異なり、現在も医療従事者への接種は続いている。V-SYSは、このような医療従事者の接種時期と高齢者の接種時期の重なりを想定していなかった。

V-SYSには、ワクチンの流通を管理するうえで2つのシステムが存在する。1つ目は高齢者向け接種の際に選択する「基本型接種施設」。そしてもう1つが、医療従事者向け接種のときに選ぶ「連携型接種施設・サテライト型接種施設」だ。システム上、各接種会場はこのいずれかになる。

現実には、医療従事者の接種が終わらないまま4月12日に高齢者向け接種が始まった。つまり、基本型かつ連携型・サテライト型であるケースも出てくる。しかしながら、システム上、2つのシステムは「同居」できない。

このように、システムは今起こっている現場を想定した作りになっていなかった。これに対して、取る方法としては2つしかない。システムに合わせて現場を変えるのか。もしくは、現場に合わせてシステムを使えるように変えるのか。

鳥取県の平井伸治知事（全国知事会新型コロナウイルス緊急対策本部本部長代行・副本部長）は「システムを守るために、ワクチンが自由に動けなくなった」と話す。理想は言うまでもなく、システムを現場に合わせて使えるようにすることである。現場を「縛る」システムでは本末転倒になってしまうと自治体側は考えた。

だが、厚労省は「システムに合わせてください」と自治体に繰り返し求めたという。例えば、医療従事者にも高齢者向けにもワクチン接種をする病院があるとすると、厚労省の指示に従えば、この病院は医療従事者向け接種を終えなければ高齢者向け接種に移れないという問題が生じる。合理的には見えないが、「1度決めたことを変えにくかったようだ」と自治体関係者は言う。このままいくと市区町村で高齢者への接種時期を5月、さらには6月以降と後ろ倒しをせざるをえない医療機関や接種会場が続出する。「市町村から大ブーイングが起きた」と平井知事は振り返る。

訴えを続ける知事たちに折れる形で厚労省が例外措置を認める通知を出してきたのは4月2日。高齢者向けワクチンが全国の自治体に配送される3日前、ワクチン接種が始まる10日前のことだ。厚労省は同日、全国の自治体向けに出した通知「ワクチンの使用用途制限の緩和について」のなかで、「医療従事者向け接種と高齢者向け接種を同時並行で進められるようにする」と記載。そして同5日、基本型か連携型・サテライト型かの設定を変更可能にし、いわば2つの型が「同居」できるようシステムの内容を変えた。

「私たちは住民に対して責任を持たないといけない。これが受け入れられなければ大問題になるところでした。（繰り返し何度も求めたことは）大人げなかったかもしれないが、最後には河野太郎規制改革相から『とにかく、やらせます』という言葉もらった」。全国知事会として国への働きかけを続けた平井知事は胸をなで下ろす。

3つもあるシステム

ワクチンに関連するシステムが複数あることも自治体を混乱させている。現在あるシステムの数は主に3つ。ワクチンの物流を管理するV-SYSに加え、誰がいつどこで接種したかを管理する「ワクチン接種記録システム（VRS）」と各自治体が他のワクチン接種の管理にも使ってきた既存の「予防接種台帳」だ。V-SYSは厚労省、VRSは内閣官房、予防接種台帳は各自治体と、3システムは担当がそれぞれ異なる。

もともとあったのが予防接種台帳。そして、新型コロナウイルスの感染が拡大し、国民のワクチン接種に備え、厚労省が開発に着手したのがV-SYS。さらに、「V-SYSだと誰がいつどこで接種したか分からない」「予防接種台帳の場合、システムの反映まで2、3カ月かかる」という弱点を補うシステムとして、内閣官房が1月から急ごしらえを始めたのがVRSだ。

ところが、どのシステムを使うかは自治体によってまちまちだ。

「接種管理は予防接種台帳でも対応できる」と話すのは埼玉県本庄市の担当者。内閣官房は「予防接種台帳は、接種記録がリアルタイムで把握できない」としている。だが、予防接種台帳を使用する場合でも、「1回目の接種から3週間あけて実施しなければならない2回目の接種の際には1回目の接種済証が必要であることなど、前回いつ接種したかの情報は管理できる」と説く。

接種記録がリアルタイムでなくても、自治体側で数日以内に記録できるようにしているため、2回目の接種を促すことができないわけではない。クラウド上にデータを管理するVRSは情報管理の面で懸念があるとみているという。そういった点で「よりリスクが低い」（本庄市担当者）ことも予防接種台帳の選択につながったようだ。

一方、誰がいつどこで何回目を接種したかが分かる、国による一元管理のシステムを求める声もあった。VRSはそんな声に応じて急きょシステム構築に着手した経緯がある。VRSの使用に当たって、国は全国の自治体に同システムを使用するか否かのヒアリングをしたうえで、3月、要望のあった自治体に、記録の入力に使うタブレット端末約3万台を配布。タブレットへの入力には接種券のバーコードを読み取れば数秒でできて簡単だ。

VRSを使う栃木県茂木町の担当者は「住民データは住民基本台帳とも連携できる。システム構築はありがたい」と歓迎する。VRSはマイナンバーと連携させるが、法律上、マイナンバーの個人情報を国が扱うことはできないため、情報は市区町村ごとに管理するとの立て付けだ。

「自治体のコンセンサスが取れない」

内閣官房関係者は「『予防接種台帳のままでよい』と言っている自治体もある。すべての自治体のコンセンサスは取れない」と話す。各システムで互いを補完し合っている点は評価できるが、どれも単体では完全ではないというのが実情のようだ。

複数のシステムが存在することになった発端は1月にある。河野規制改革相が1月中旬、ワクチン担当に指名されたことで、厚労省が主管するワクチン行政のしきり役が「増えた」格好になった。同時に、それまでワクチン行政を担当してきた厚労省と河野規制改革相との間でシステムに対する考え方の違いが生まれた。

「厚労省が主導しているところにワクチン担当大臣を置くことになった。そして大臣が『新たなシステムを作ろう』と言ったことで官僚たちが頑張る形にしなければと動き出した」。ある自治体の首長はそう語る。

もっとも、本当に使い勝手のよいシステムを構築するには、急ごしらえでは難しいだろう。VRSに先駆けて開発されたV-SYSについても自治体から使いやすさを求める声は後を絶たない。実際、厚労省は4月8日、V-SYSについて同5日から都道府県別にワクチンの接種実績を表示する機能が使用できなくなっていたことを明らかにした。

今後も新たな感染症が出てくる可能性は指摘されている。「あらかじめ作っておけば、こんな大騒ぎをしなくてもよかった。もっと早くから議論を深めていってほしかった」と本庄市の吉田信解市長は言う。今からでも遅くない。自治体の声を反映したシステムの改善が引き続き求められている。

=====西山 和宏

○木場祥雄

西山さん

こんにちは

また、また 貴重な情報 メールしていただき有難うございます。

我が町 生駒市は 全国で 3番目に 発生率が多い 町となり 緊急事態宣言が5月9日迄 発令されたようです。

まず、高齢者注射が始まりましたが これに係わる医療従事者が コロナワクチン注射を済まされていないような 状況まったく 不思議です。高齢者あとまわしにして 先に医療従事者に注射を優先する事できないか される人も 不安です。

生駒市の状況は 4月2日より 85歳以上の人を対象に 案内来ましたが 8日から受付始まり 瞬時に 予約完了となり 次の予約は 22日とか・・・言われておりますが延期になったようです。

生駒市は 85歳以上は 約5,500人 80歳以上～85歳は 1万5千人 住んでいます。

後で 聞きますと 今回は 550人分だったそうです。私共は いつになるか 全然お知らせありません。延期の文書のみ 送られてきております。

全く 日経ビジネスの記事通り、複数のシステムが存在することになったことが 混乱のもといくら、菅総理が USA でファイザー社と 供給増を話し合いしたとテレビで放映していますが具体的な 事になると 地方自治体任せ 我々 81歳は 7月までに 注射できるのでしょうか？ 不安です。

以上のような 状況です。いつも 情報ありがとうございます。

参考になりました。

また よろしく おねがいします。

木場 祥雄

2021年4月20日か 10:10 Kazu Nishiyama <・>:



○
<https://youtu.be/GITFfkR3jzY>

--
YouTube 動画 遠藤彰子展『魂の旅』kagoshima2021 をプレビュー





<https://youtu.be/ZG1bdZqV5ll>

YouTube 動画のコメント（上の URL をクリックしてください。スマホ用に作っているので画像が粗いかも知れません。また、テレビからのコピーは音量が小さかったり、大きかったりします。それぞれ音量調整してください。）

南日本新聞紙上で中村隆重『ジャルダンの大地』発刊の紹介記事が隆重クンの顔入りで出ていた。もしかしたら隆重クンは鹿児島県内だけではなく、日本全国でも「ノウフク・アワード」初代グランプリ受賞でも分かる通り、歴史に名を残す偉大な男になるかも知れない、いや間違いなくそんな人物になりつつある。

農業と就労機会の少ない知的障害者をつなぐ「ノウフク連携」をはじめ法に触れた障害者（触法者）を積極的に受け入れる取り組みをしている50年の彼の努力がまさに日の目を浴びるときが来た感がする。

顔を合わすたびにみる彼の温和な顔は「ほんとうにやさしい顔とはこんな顔」の模範のように見える。きっと花ノ木の職員さんや施設の園生のみんなも、そう感じていることだろう。それでも、ここ一番と言う時には（高校時代柔道部の猛者だった）怖い顔も見せるのだろうが。

たいへん立派な内容の本が発刊された。著者・今井 仁氏の中村隆重に込めた思い入れが、少しでも実情を知っている者が読むと、ひしひしと伝わってくる、ただ、挿入写真がモノクロの為に、いまいちあの「花ノ木農場」の美しい緑の圃の風景が伝わってこない。

ぼくが写真と動画を使って YouTube 動画を作ったのはそれを伝えることだった。

現在・過去・未来へ繋ぐ動画の構成にするつもりだったが未来が回憶になってしまった。

ぼくがもし中村さんと「花ノ木の未来」のこと、そして過疎地区と言われる隆重クンの故郷・南大隅の今後の発展について語り合うとすれば、第七章の「農福連携」をホップとしたら、次のステップは「グリーンツーリズムとの連携」だろうか。

それは隆一郎新理事長を中心とした強力なファミリーと優秀（初代の薫陶を受けた）な側近職員さんたちの手腕にかかっている。

大石ケイジ

○じっくり観ました

いつもながら律儀な編集、時間がかかり混乱しそうな作業の成果を観ました。

中村くんは、本当によくやったと思います。しかも農業で採算ベースに乗せるという稀有のことを成し遂げ、大きな花ノ木を咲かせました。

大石くんが言うように彼は大きな人物になりました。

学生時代に、クラブ活動で、犯罪者や精神病者のことを調べたことがあります。

1960年代、初犯で立ち直ることはなく犯罪を重ねた累犯者が増え、犯罪は職業化していると警視庁で聞きました。

花ノ木では放火犯は放火をしたがり、性犯罪者は女風呂を覗きたがると、中村くんから聞きました。

触法者の預け先に苦慮している担当者は、夕方遅く、花ノ木から帰る手段がない時間に連れてくるとも聞きました。

私が最も驚いたことは、2015年、「日本で一番大切にしたい会社」に選ばれたときであったと思うが、公表した財務内容の素晴らしさです。

今では広大な資産を有し、2年分の人件費を内部留保、万全な経営基盤を築かれたことは経営者として立派なことである。堅固な財務基盤があってこそ目指す福祉活動に邁進できるのでしょう。宿舎や施設の立派さ、道具もよく揃えられていると思います。これらは、そこで働いている人々に安心感とプライドを

与えているでしょう。おれたちは、わたくしたちは、まともに扱われていると感じているはずです。

夫唱婦随とはいえ、奥さま多喜子さんから「嫁しては夫に従えで嫁にきた」と、上野の韻松亭で聞きました。

中村くんが思うまま100%でないとしても物事をさせてくれたと思う。

職場と家庭が同じ場所であったであろうから内助の功というよりも、花ノ木は二人三脚のものだと思う。

中村さん ご夫妻 本当に おめでとうございます！

=====西山 和宏

以上5月7日(金)に記入しました。 大石

○5月14日

フレイルにならないように精々気をつけましょう

このメールへの応答も、その対策の1つかもしれません。

ノ木農場、周辺農場を糾合しての活動はパワーアップになることでしょう。=====西山 和宏

○このデモ飛行が単なる通過儀礼に終わらないことをねがうばかりです。 クマモト

○5月17日

「戦闘機音 耳澄ます」のヘッドラインが皮肉に聞こえるこちらにも耳を澄ましたい。

テスト飛行は選り抜きのパイロットが行い実際のタッチ・アンド・ゴーは訓練のために行われる。

とにかく、訓練地としてオープンすれば、後はどうとでもなるということでしょう。

最近はずいぶん嘘まで言わなくても、本当のことを教えないようになりました。

南種子町の主婦の談話

「屋外は遠くで雷鳴が響いているようだったが、室内では聞こえなかった。…」

その雷鳴は帯のように、または樽を転がしたように、凄い音をたてるのを聞いたことがあります。

その昔、真珠湾攻撃に備えて、戦闘機が城山の岩崎谷へ突っ込んで錦江湾上を飛んで桜島へ向かって上昇する訓練が行われたそうです。指揮官は源田実。

鹿児島に軍事色が濃くなっているようです。

西山発

○西山くんから提供ニュース

離島防衛訓練、仏が初参加 九州で日米と

上陸や戦闘演習 対中国、尖閣を念頭

2021年5月16日

○陸上自衛隊と米海兵隊、フランス陸軍は15日、九州で離島防衛訓練を実施した。

仏陸軍が日本国内の訓練に加わるのは初めて。沖縄県の尖閣諸島周辺では中国が活動を繰り返しており、万が一への対処能力を高める。法の理念や価値観を共有する欧州と東アジアの安全保障で協力する姿勢も示した。15日午前10時40分すぎ、雷雨の陸自霧島演習場(宮崎、鹿児島県)。自衛隊のヘリ「CH47」から仏軍兵が次々と降りた。陸自の離島防衛専門部隊「水陸機動団」と米海兵隊が周囲で銃を構えて警戒した。

戦闘機音 耳澄ます



防衛省のデモ飛行を見学する住民ら
=16日午後3時35分ごろ、西之表市住吉(五反田和美撮影)

地元住民

馬毛島デモ飛行

西之表市馬毛島への米軍空母艦載機陸上離着陸訓練(COLT) 移転計画を進める防衛省による町からも熱い視線が注がれた。(一面参照)

「体」に響く低音 「想像より静か」

「見えた」「あそこ」
海を隔てて馬毛島を見守る西之表市住吉や大崎地区の住民らに、馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。



西之表市街地のホテル5階からデモ飛行を眺める市民
=16日午後6時すぎ、同市西町(赤間早也香撮影)

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

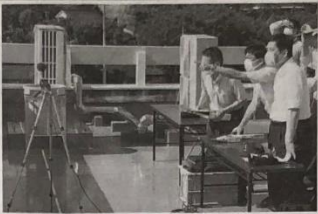
「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

「想像よりも静か」
馬毛島に駐留する米軍艦載機が、想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。機が見え、音は想像よりも静かだ。

県方針アセス準備書後

塩田知事 騒音の所感語らず



騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)
=16日午後3時35分ごろ、西之表市(緒方隆撮影)

16日の空自機によるデモ飛行は西之表市の県民から騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。騒音計の前でデモ飛行を見学する塩田康一知事(左から3人目)は、騒音の所感語らず。

14地点で音量測定

防衛省詳細地点は非公表

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。

防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。防衛省は14地点で音量測定を行う。



2台の騒音計で測定する防衛職員
=16日、西之表市の馬毛島合同庁舎

当初の訓練計画では海上の艦艇から仏軍兵を乗せたヘリを飛ばす予定だった。悪天候のため、仏軍は相浦駐屯地(長崎県)から陸路で演習場に入り、ヘリに乗った後に現場に降下した。上陸の手順を確かめると次は戦闘になる。演習場内の市街地を模した場所に移動した。午後1時すぎ、敵の侵入が疑われる空港施設を奪回する作戦を始めた。陸自と仏軍が障害物を爆破して進入路を確保する。仏軍兵がターミナルビルを模した建物へ慎重に突入した。3カ国での訓練は17日まで続く。この間は敵の攻撃を想定して夜通しで共同監視もする。16日は実弾を使った射撃演習をする。

仏軍は「第6軽機甲旅団」の60人。アフリカなどで実戦に参加した経験豊富な部隊だ。

陸自100人、米海兵隊60人で200人以上が連携して動く。

同時期に九州西方の海上と空では海上自衛隊と米仏、オーストラリア軍も共同訓練している。

仏陸軍のアンリ・マルカイユ中佐は15日の記者会見で「我々は太平洋の一員との認識を持っている。

日米と肩を並べて認識を共有し、運用の手順を共有することは重要だ」と語った。

日米安全保障条約を結ぶ米国と違い、仏軍が日本を守る義務はない。

日本でわざわざ上陸と戦闘をあわせた離島防衛の訓練をするのは、近隣へのメッセージになるからだ。

日本で離島防衛の重要性が問われている場所といえば尖閣であり、一番の脅威は中国だ。

仏軍の参加は、日本周辺での中国の活動に「フランスも安全保障上の関心がある」と示す発信になる。

日米仏は主要7カ国(G7)の会議などで、航行の自由や国際法の順守の重要性を繰り返し確認してきた関係だ。

いずれも日本周辺では中国の海洋進出への警戒を示す言葉になる。

訓練に参加した開雅史・第1水陸機動連隊長は会見で「フランスは自由で開かれた

インド太平洋ビジョンを共有する同志国だ」と強調した。

「仏軍との連携は日本周辺の抑止力、対処力強化に不可欠だ」と明言した。

中山泰秀防衛副大臣は記者団に、特定の相手国を想定した訓練ではないと

断った上で「お互いの国々の交流を深めてプレゼンスを発揮できるようにしたい」と述べた。

フランスはベトナムやカンボジアなどの旧宗主国で歴史的な関係が残る。

アジアと欧州を結ぶ海洋交通路(シーレーン)が中国の活動で自由に航行で

きなれば自国にも影響が及ぶ。香港や新疆ウイグル自治区での人権問題もフランスの背中を押す。

今回の異例の共同訓練はフランス側から持ちかけた。

中国の抑止に積極的になったフランスの強い意志が表れている。

今年後半にはフランスだけでなく、英国やオランダ、ドイツも軍の艦艇を日本周辺に派遣する。

かつての欧州は中国との経済的なつながりを重視して、

東アジアの安全保障の問題と距離を置く場合が多かった。

いま欧州主要国は対中国で日米に足並みをそろえようとしている。

(安全保障エディター 甲原潤之介)=====西山 和宏

○大石アンサー 西山くんの見解、甲山さんの記事(解説)その通りだと思います。

中国がどういう対応をしてくるか？

防衛省(嘗てなら軍本部)の力が内閣に圧力をかけるほどないのが救いです。

○5月24日 古代史の新聞切り抜きに対して……

○天皇家も昔から大変であったのですね

村人は華美なこととは縁はなかったが和気藹々、同じリズムの四季を繰り返して割と長閑に暮らしたようです。

古い物が次々、見つかりますが果たして、人類はいつ頃から人間として存在したのでしょうか？

=====西山 和宏

○隈元アンサー

藤原家と天皇の関係、女性天皇のこと、特に孝謙天皇(後の称徳天皇)と関係の深い「日本最大悪人」の一人で昔から悪者にされてきた道鏡の事には興味を惹かれます。

古代史も面白いですね。少しかじりたくなりました。 クマモト タツオ

○座ると膝が3つあったという。=====西山 和宏

○なるほど！ 納得です。(爆) 隈元

○皆さんに早く写真を送ろうと思いながら、今朝は急遽、朝市に「ラッキョウ」と「スモモ」を買いに行くことになり、出かけてしまいました。

まだ「スモモ」は売ってなくて、「ラッキョウ」だけゲットできました。これから毎年ながらラッキョウ剥きが大変です。昨日、本田さんにいただいた梅も一部は「梅シロップ」をつくろうと思って「氷砂糖」も買って帰りました。これから楽しみです。

追記 大石くんへ

この写真は中国留学生中心のものが多いです。できれば彼らにも転送していただければありがたいです。

他の写真も追々送ります。

隈元タツオ

○傷物が2キロほど、勿体ないですね。

ジャム作りに挑戦してみます。2.3日干して黄色くなつてから1日冷凍して400gほどで作ってみようかなあと思います。

リカー梅酒、ブランデー梅酒、梅ジュース(本田夫人の)そして梅ジャム…歴史年代に変えるとそっくり歴史探検ですね。

○よくやりますね。がんばってください。

しかも、自分でやるというのは才能ですよ。

梅ジャムは大人の味です。 クマモト

○ 皆さんに早く写真を送ろうと思いながら、今朝は急遽、朝市に「ラッキョウ」と「スモモ」を買いに行くことになり、出かけてしまいました。 森

○西山レポートをお送りします。PDFも添付します。

<https://mail.google.com/mail/u/0?ui=2&ik=1b3f5184ee&attid=0.1&permmsgid=msg-f:1700531459111623476&th=1799805a2db99b34&view=att&disp=inline>

〇ありがとうございます

元気でお変わりなく…去る日曜日（奇跡のような夏日）隈元、森、南郷に中国留学生の若者4名で本田ご夫妻宅に『枇杷もぎりと梅落としプラスBBQランチ会の『小さな田舎旅』を行いました。

以下YouTube動画を

〇<https://youtu.be/hRiipbSXmkk>



〇「ビワ食べ放題に、梅落とし」 - 中期高齢者である田舎人のタワゴト。

本田哲郎氏のブログから……

<http://iuk000008.blog44.fc2.com/blog-entry-496.html?sp>

先年より、郷土史（薩摩島津家など）を通じて交流している玉龍高校の同期生の「八期会」の歴史愛好家の皆さんが、過去数回当地の史跡など来られて、こちらでアチコチご案内をしている。

今は「コロナ禍」ではあるが、当家の庭にあるビワや梅が塾してきたことで、まだ案内していない史跡などの見学なども含めて、また彼らが来てくれることになった。それは、5月20日（日）の快晴の日であった。

その歴史愛好家のメンバーの一人であるが、北京生まれで、今も鹿児島の日中友好協会の役員をされえている〇君がいる。彼の協会では鹿児島の各大学に留学している中国からの学生達の日頃の支援もやっているとの事である。毎年、今頃、学生達とバスハイクなどしているが、今年は「コロナ禍」でそれもできずにいるので、彼らのうち数名も同道させたいとの意向もあった。留学生達も「日本の田舎」の風景や生活を見たいとの要望もあるとの事で、当方としても大歓迎であるということで、爺さん集団が4名、留学生4名（鹿児島大学2名、鹿児島国際大学2名）の合計8名の方々

が、2台の車に分乗されて、当地に、午前11時頃、拙宅に來訪された。



到着後、留学生たちを紹介いただき、すぐの庭先にある「ビワの食べ放題」に挑戦してもらった。ビワの木は数本あり、手入れなどはできていないが、どの木にも「鈴なり」の状況であり、皆さんしばらくは、手つかみで、食していた。

その後、「梅落とし」に挑戦してもらった。梅の木も数本あり、みんなで手分けして、ブルーシートを木の下に張り、「もの干し竿」で、梅枝をたたいて、梅を「落とす」作業である。1時間足らずで、おそらく、バケツ5～6杯が取れたと思われる。

家内が、その後、昨年につくった「梅ジュース」を皆さんに振舞ったが、どなたも「おいしい」ということで、青い梅は「梅酒」に「赤色などの梅」は「梅ジュース」にと、レシピも家内が説明して、皆さん、持ち帰り、それぞれで、挑戦することとなった次第。はじめは爺さん達だけでしたが、留学生達も「梅ジュース」の「うまさ」に感動して、自分らも持ち帰り、「ジュース」を作りたいと、さらに「梅落とし」を再び行い、それぞれ「袋に入れて」持ち帰りました。果たして、彼らは「ジュース作り」ができたかどうか？

その後、正午過ぎに、芝生の庭で、「コロナ禍」ではあるが、距離を取りながら、バーベキューの食事を皆さんで楽しんだ。

食後、しばらくの休憩の後、自宅裏に聳える「ふるさとの山、愛宕山(標高89m)」に登山してもらった。この山は、里山であり、独立峰であるので、頂上からの眺望が優れており、永吉地区の全貌、薩摩半島、吹上浜、東シナ海、野間岳、甕島なども遠望できる「山」であり、登り15分、下り5分の比較的楽な山道行であることで、八十路の爺さん集団も挑戦したが、やはり、食後すぐの「行動」であり、爺さん達はいずれも途中でリタイアして、早く降りてこられました。

留学生たちは、頂上まで行きつき、眺望を堪能したとの事でした。



上：天昌寺跡について説明を聞く留学生たち



本田哲郎 単鵬（鹿大） 袁（国際大院生）

その後、留学生達にも、それぞれ当地の史跡紹介などの資料などを渡しなが、と、りあ、え、ず、永吉島津家の歴代領主などの墓地、天昌寺跡(大きな五輪塔の墓が林立している)を見学してもらい、また彼らからの要望もあった吹上浜(永吉浜)の波うち際まで行ってもらった。この海の彼方には、貴方たちの中国に通じているのだよ！と話したが、彼らも感慨深くな様子であった。

食事時など、日本留学の意義や将来何の仕事に就きたいか？なども聞いたが、それぞれ、大きな希望と抱負を語ってくれて、ほんとに頼もしい！！と感じられた次第である。

その後、時間も限られていたが、最後に皆さんまだ見たことがないとの事であったので、伊作地区の「大楠」を見学に行った。

蒲生の「楠の木」が最大のクスノキの木とい見られているが、ここの「クス」は何本もあり、しかも、枝続きの珍しい「形」をした大楠もあり、皆さん、「ビックリ」されています。

夕刻近くになりましたので、ここで皆さんと「お別れ」した。

彼らは伊作峠越えて、鹿児島市への帰途に就かれました。

その後、皆さんから、ラインやご自分のブログなどで、ビワ、梅干切り、愛宕山登山、吹上浜、大楠などのことを楽しんだとの「報せ」もいうたいうている。なんとか、「田舎の様子」もちょっぴり理解できたのでは？と思うことでした。

梅雨時の、つかぬ間の「快晴の日」に恵まれての一日であり、愉快な一日となった次第である。



0君が、いみじくも表現していましたが、「コロナ禍」の中の「小さな旅」も無事終了できた一日であった。

〇八期 LINE のアラカルト(いろいろピックアップして)

